

## 佐久市佐久つと支援金事業 自己評価報告書

評価日 平成30年3月29日

団体名	跡部踊り念仏保存会		
事業名	現状の「跡部の踊り念仏」の映像保存		
対象経費	985,321円	支援金額	100,000円

事業の目的 ・内容	目的  739年の長きにわたって跡部地区に伝承されてきている国的重要無形民俗文化財「跡部の踊り念仏」が、将来にむけて、現状の形として伝承していくための方策として、DVDに記録保存しておき、それを、これからの中の保存伝承活動に役立てていく。  また、外部の団体や地区からの「跡部の踊り念仏」についての問い合わせに対し、DVD映像として貸し出しをし、この文化財の広報活動にも活用したい。
	内 容  定例公演と同様に、西方寺本堂内に踊り念仏を演じる道場を組み立てる。  伝承されてきている「跡部の踊り念仏」を演じ、踊り、念仏、太鼓、鉦が一体となった映像・音声の録画・録音をする。  1舞台目と2舞台目の2本立てとする。 1舞台目は定例公演と同様に演じたままの録画・録音とする。 2舞台目は踊り手・太鼓方の所作がよく見えるように道場を解体し床面の四辺の枠のみ残す。 踊り手の体と足のさばき、鉦、太鼓の手さばきがよくわかるように、分解画面も加えていく。 また、解説(ナレーション)を挿入し、ポイント箇所にはテロップをいれる。

事業の活動実績	・11月26日(日)を撮影日と決め、10月と11月に6回の練習を実施した。 ・11月25日(土) 西方寺本堂内に道場(舞台)を組み立てた。 ・11月26日(日) 撮影当日 1舞台目の撮影実施。 <昼食、休憩> 道場を解体し、床面の四辺の枠のみ残した。 2舞台目の撮影実施。 道場の枠組みのない状態で、踊り手、太鼓方の動き・音声全体を録画・録音した。 更に、2舞台目の音声に合わせ、踊り手2人による踊りの分解撮影を実施した。 ・12月 挿入するナレーションとテロップについて映像制作会社としり合わせをした。 ・30年2月 仮編集DVDの試写をし、修正点の指示と部分的追加の依頼をした。 ・3月12日 映像制作会社で編集の最終確認をした。(保存会長立会) ・3月13日 最終のDVD納入された。 ・3月17日 伝承者代表3名と保存会役員とで最終のDVDを試写し、完成確認をした。 ・3月24日 定例公演に備えた1回目の練習で、小学生を交え、このDVDを試写した。



事業の成果 ・効果	・予定どおり、30年3月までに完成することができた。 ・11月26日の撮影会までの練習を通じて、「跡部の踊り念仏」を構成している太鼓、踊り、念仏、鉦の一体感が強まった。 ・伝承者間の意思疎通がより高まった。 ・現状の「跡部の踊り念仏」の姿が、将来にむけて維持され伝承されていくと思う。 ・新しく伝承者になってくれる人にとって、有効な教材となると考えられる。 ・子ども達に「跡部の踊り念仏」を教えたり経験してもらうための、わかりやすい教材である。 ・区全体に「跡部の踊り念仏」を知ってもらうためにも、効果が大きい。 ・跡部区以外への広報活動に役に立つ。

自己評価	① できた ② 概ねできた ③あまりできなかった ④ほとんどできなかった 主な理由(3, 4と答えた場合のみ)
	① できた ② 概ねできた ③あまりできなかった ④ほとんどできなかった 主な理由(3, 4と答えた場合のみ)
	1.ほとんど同じ 2.多少の変更があった 3.大幅に変更している 主な理由(2, 3と答えた場合のみ)
	・映像制作を進めていく中で、盛り込む内容を増やしたため、DVD制作委託料が計画書段階より約7%増えた。 ・跡部踊り念仏保存会の負担金を5万円増した。 ・この3月末時点では、新しく女性伝承者の希望者が1人で、早くこのDVD映像を見て、練習に参加してくれている。 ・今後、伝承者の高齢化が進む中で、新しい後継者を生み出すために、本事業が大きな力となるものと考えます。

※ 自己評価の欄は、番号に○を付けて下さい。評価は、客観的自己診断です。

今後の事業展開	・今後の「跡部の踊り念仏」の保存伝承活動に有効に活用していく。 例: 小学生の夏休み地域交流会における「子供踊り念仏」の際に、このDVDをみてもらう。 定例公演の事前練習に、このDVDを活用していく。 区外からの公演依頼が来た際の事前練習に、このDVDを活用する。 ・区外からの「跡部の踊り念仏」に関する問い合わせに対して、このDVDを貸し出して要望に応えて行きたい。 ・あとに続いてくれる新規伝承者を募っていく際に、このDVD映像を活用していく。